

◎昭和 44 年度第 2 回理事会議事録 (44.7.25) 出席者：柳沢会長、尾之内、園分、米谷、長浜の各副会長、羽田専務理事、安藤、伊藤、内田、小川、大地、岡田、倉田、後藤、高橋、土方、平岡、南、毛利の各理事、川瀬監事。議事録署名理事の決定：柳沢会長、羽田専務理事、平岡理事。A. 報告事項：つぎの各項につき羽田専務理事より報告があり了承された；1) 会計報告。2) 刊行物頒布報告。3) 各種委員会その他報告。4) 第 13 回国際水理学会会議資金募金の状況について。5) 企画委員会報告：羽田専務理事から、第 5 回(7月1日)、第 6 回(7月22日)の両委員会で検討した事項をまとめて概略つぎのような報告があった；① 海外活動について：海外活動を活発にするため、従来の海外連絡委員会を改組する必要がある、この線で海外連絡委員会での検討が行なわれた。② 大型事業(たとえば東海道新幹線)の実例により、総合計画、経済性等を検討、討論して generalist を養成する必要がある。③ 電算機の活用について；重要問題であるが学会として、どうあるべきか検討している。④ 建設業委員会について；発注者、受注者、中立の 3 グループからなる委員会を作りたい。具体案が理事会へ提出される見込み。⑤ コンサルタント業委員会について；具体案ができてから理事会へ提出される見込み。⑥ 原子力の問題について；既設委員会との関連も検討した結果で、いずれ具体案が理事会へ提出される見込み。⑦ 国土総合開発について；空、陸、海を総合した交通体系研究の委員会が理事会へ提案される見込み。⑧ 委員会の新設と統廃合について；新しく沢山の委員会ができる見込みであるが、既設委員会との関連を十分考慮のうえ、土木学会の全体のあり方を検討する必要がある。また、資金の問題も今後検討を要する：以上の報告に対し、2, 3 の質問や意見があったが理事会として、これらの問題や財政の問題等を十分考慮しておく必要があるということで報告を了承。6) 総務・経理担当理事会の報告。B. 協議事項：1) 土構造物の設計標準に関する研究受託について：羽田専務理事より説明があったのち、協議の結果承認。2) 構造物の耐風性に関するシンポジウム開催について；羽田専務理事より主催団体は土木学会、日本建築学会、日本鋼構造協会で明年 5 月

下旬開催の予定である主催団体として分担金を出すことになるが、こまかな内容は未定でありこれ準備の段階であると説明。これに対し、趣旨に異存ないが、細部については、さらに調査のうえ次回の理事会で説明することで承認。3) 事務局職員に対する住宅資金の貸付について：羽田専務理事および安藤理事より担当理事会での検討結果もふくめて、説明があり異議なく承認。4) 海洋開発委員会の構成について：羽田専務理事より説明ののち、質疑応答の結果原案通り承認。5) 支部幹事長、事務局責任者会議の開催を承認。6) その他。7) 委員の委嘱

① 会誌編集委員会

- | | | |
|-----|--------|----------|
| 委員長 | 森 茂 | コンサルタント |
| 委員 | 若木 三夫 | 建設省 |
| | 神田 創造 | 日本道路公団 |
| | 菊川 哲士 | 運輸省 |
| | 斎田 登 | 建設省 |
| | 杉山 好信 | 建設省 |
| | 布目 恵造 | 建設技術研究所 |
| | 山本弥四郎 | 東京都 |
| | 鳥居 敏則 | 日本鉄道建設公団 |
| | 斎藤健次郎 | 建設省 |
| | 丹羽 俊彦 | 国 鉄 |
| | 矢部 正宏 | 建設省 |
| | 五十嵐日出夫 | 北海道大学 |
| | 高橋 毅 | 北海道開発局 |
| | 福田 正 | 東北大学 |
| | 松浦 聖 | 名古屋工業大学 |
| | 井上 頼輝 | 京都大学 |
| | 門田 博知 | 広島大学 |
| | 蕨本 健作 | 建設省 |
| | 原 欽吾 | 九州電力 |
| | 彦坂 照 | 九州大学 |
| | 片山 恒雄 | 中央大学 |

② 論文集編集委員会

- | | | |
|------|-------|------|
| 副委員長 | 前田 幸雄 | 大阪大学 |
|------|-------|------|

③ 欧米論文編集委員会

- | | | |
|-----|-------|--------|
| 委員長 | 林 泰造 | 中央大学 |
| 委員 | 西野 文雄 | 東京大学 |
| | 日野 幹雄 | 東京工業大学 |
| | 浅川 美利 | 日本大学 |
| | 越 正毅 | 東京大学 |
| | 野尻 陽一 | 鹿島建設 |
| | 片山 恒雄 | 中央大学 |
| | 村井 俊治 | 東京大学 |

④ 海岸工学委員会編集委員会

- | | | |
|-----|-------|---------|
| 委員長 | 堀川 清司 | 東京大学 |
| 委員 | 合田 良実 | 運輸省 |
| | 鈴木 禧実 | 運輸省 |
| | 橋本 宏 | 建設省 |
| | 和田 明 | 電力中央研究所 |
| | 鹿島 達一 | 電力中央研究所 |
| | 西村 仁綱 | 東京大学 |
| | 三橋 宏次 | 農 林 省 |

⑤ 耐震工岸委員会

- | | | |
|-----|-------|------|
| 委員長 | 岡本 舜三 | 東京大学 |
|-----|-------|------|

⑥ 橋梁構造委員会耐風設計研究小委員会

- | | | |
|----|------|------|
| 委員 | 田中 宏 | 東京大学 |
|----|------|------|

⑦ 文献調査委員会

- | | | |
|--------|-------|---------|
| 委員兼幹事 | 白砂 孝夫 | 電力中央研究所 |
| 第 1 部会 | | |
| 委員 | 星埜 正明 | 東京大学 |
| | 満木 泰郎 | 電力中央研究所 |

- | | | |
|--------|-------|---------|
| 委員 | 大塩 明 | 小野田セメント |
| 第 2 部会 | 松本 徳久 | 東京大学 |
| 委員 | 渡辺 晃 | 東京大学 |
| | 馬場 洋二 | 建設省 |
| | 吉野 文雄 | 東京大学 |
| | 木原 力 | 運輸省 |
| 第 3 部会 | | |
| 委員 | 森下 光政 | 宮地鉄工所 |
| | 上高原 健 | 建設技術研究所 |
| | 小浪 博英 | 建設省 |
| | 小田代信治 | 厚生省 |
| | 坂本 静徳 | 国 鉄 |
| | 中島 幸彦 | 東京都 |
| | 岩井 勝彦 | 日本道路公団 |

⑧ 第 6 回トンネル工学に関するシンポジウム財務委員会

- | | | |
|-----|-------|-------|
| 委員長 | 石川 六郎 | 鹿島建設 |
| 委員 | 加納 俊二 | 熊谷組 |
| | 高坂 紫明 | 奥村組 |
| | 飯吉 精一 | 鉄建建設 |
| | 高橋 好郎 | 大成建設 |
| | 鈴木 啓吉 | 西松建設 |
| | 坂本 貞雄 | 大林組 |
| | 安藤 道夫 | 三井建設 |
| | 北村市太郎 | 鹿島建設 |
| | 和田圭主作 | 小松製作所 |
| | 清水 四郎 | 三菱重工 |
| | 山田 秀雄 | 石川島重工 |
| | 安藤 彦夫 | 川崎重工 |
| | 鈴木 勇 | 東京電力 |

論文委員会

- | | | |
|-----|-------|----------|
| 委員長 | 伊吹山四郎 | 建設省 |
| 主 査 | 島田 隆夫 | 国 鉄 |
| 委員 | 浜 建介 | 日本鉄道建設公団 |
| | 佐藤 能章 | 国 鉄 |
| | 川崎 迪一 | 建設省 |
| | 今西 誠也 | 日本道路公団 |
| | 堀江 実信 | 農 林 省 |
| | 田中 治雄 | 電力中央研究所 |
| | 中 徹 | 建設省 |
| | 山崎 孝允 | 電源開発 |

○都市トンネル分科会

- | | | |
|-----|-------|-----------|
| 主 査 | 西嶋 國造 | 帝都高速度交通営団 |
| 委員 | 久保村圭助 | 国 鉄 |
| | 杉田 秀夫 | 日本鉄道建設公団 |
| | 玉置 脩 | 首都高速度道路公団 |
| | 遠藤 浩三 | 東京都 |
| | 壺 哲司 | 近畿日本鉄道 |
| | 吉川 新吉 | 東京電力 |
| | 山本 稔 | 都立大学 |
| | 林 正雄 | 国 鉄 |

○沈埋トンネル分科会

- | | | |
|-----|-------|-----------|
| 主 査 | 大平 拓也 | 日本鉄道建設公団 |
| 委員 | 布施 洋一 | 建設省 |
| | 仲田 忠夫 | 首都高速度道路公団 |
| | 三好 迪男 | 大阪市 |
| | 村上 良丸 | 首都高速度道路公団 |

⑨ 琵琶湖の将来水質に関する調査小委員会

- | | | |
|-----|-------|--------|
| 委員長 | 岩井 重久 | 京都大学 |
| 委員 | 川北 米良 | 日本大学 |
| | 久保 赴 | 建設省 |
| | 合田 健 | 京都大学 |
| | 小島 貞夫 | 東京都 |
| | 杉木 昭典 | 東京大学 |
| | 津田 松苗 | 奈良女子大学 |
| | 平井多喜夫 | 滋 賀 県 |
| | 宮崎 明 | 建設省 |
| 幹 事 | 稲場紀久雄 | 建設省 |

	斎藤健次郎	建設省
	西原 巧	建設省
	林 正夫	建設省
◎	土構造物の設計標準に関する研究委員会	
委員長	最上 武雄	東京大学
委員	福岡 正己	建設省
	白石 俊多	地下工事コンサルタント
	鈴木 俊男	東京都
	池田 康平	日本鉄道建設公団
	小泉 安則	建設省
	藤田 圭一	間 組
	足立 洪	日本道路公団
	林 聡	運輸省
	遠藤 正明	竹中工務店
	玉野 治光	首都高道路公団
	吉田 敏	建設省
委員兼幹事長	松本 嘉司	東京大学
参 与	西亀 達夫	国 鉄
	尾崎 寿	国 鉄
	樋口 芳朗	国 鉄
	都 淳一	国 鉄
	島田 隆夫	国 鉄
	久保村圭助	国 鉄
	池田 俊雄	国 鉄
幹 事	安本 修一	東海大学
	奥村 樹郎	運輸省
	加藤 寛	日本道路公団
	矢作 枢	首都高道路公団
	塩井 幸武	建設省
	今村 昌彦	日本鉄道建設公団
	丹羽 俊彦	国 鉄
	佐藤 能章	国 鉄
	後藤 敏	国 鉄
	佐々木 定	国 鉄
	諺岡 薫	国 鉄
	小森 博	国 鉄
	森重 龍馬	国 鉄

◎総務・経理担当理事会 (44.7.17)
出席者：総務 比留間，平岡の両理事，
経理 安藤，末沢の両理事。議事：1) 会
務担当理事の各種委員会の担当区分につ
いて。2) 事務局職員に対する住宅施策に
ついて。

◎各種委員会

(1) シールド工法小委員会第4分科
会 (44.6.16) 出席者：西嶋主査，ほか6
名。議事：シールド工法設計施工指針第
4編施工および施工設備の原案審議。

(2) 耐震工学委員会第1回常任委員
会 (44.6.17) 出席者：関係者 15名。議
事：1) 経過報告。2) 運営方法について。
① 調査研究事項(事業を含む)について，
② 内親について。3) 第10回地震工学研
究発表会について。

(3) トンネル工学委員会調査小委員
会打合せ (44.6.17) 出席者：丸安委員
長，ほか3名。議事：1) トンネル標準示
方書改訂版第2編調査にもりこむべき
図，写真について。2) 調査成果の総合判
定のとりまとめについて。3) 湧水，汚水
調査について。

(4) 土木年鑑編集委員会(第1回委
員会) (44.6.18) 出席者：春日屋委員長，
ほか18名。議事：1) 経過報告。2) 新
委員紹介，委員追加の件。3) 70年版目
次討議の件。4) その他。

(5) 空港舗装研究委員会コンクリ
ート舗装部会 (44.6.18) 出席者：国分部
会長，伊東主査，ほか12名。議事：1)
試験舗装実施要領(案)について。2) 試験
舗装の目的(コンクリート舗装)につい
て。

(6) トンネル工学委員会施工小委員
会吹付コンクリート分科会 (44.6.19) 出
席者：足立委員長，大塚副委員長，ほか
5名。議事：吹付コンクリート設計施工
指針(案)の原案審議。

(7) プレキャストコンクリート杭打
合会 (44.6.19) 出席者：関係者9名。議
事：プレキャストコンクリート杭の研
究委託につき打合せを行なった。

(8) フライアッシュ小委員会打合会
(44.6.19) 出席者：関係者4名。議事：
1) フライアッシュを混和した既設港湾構
造物より採取した強度試験および中性化
試験の結果のとりまとめ。2) フライアッ
シュ長期耐久性に関する試験・追加試験
(暴露条件の相違による影響)について。

(9) 海外活動に関する懇談会 (44.
6.20) 出席者：柳沢会長，ほか5名。
議事：1) 企画委員会の建議による「海
外進出促進」方策の処理について協議。
2) 海外連絡委員会の今後のあり方につ
いて。3) 理事会へ議題として上げる場合の
方策。4) その他。

(10) 岩盤力学委員会第1分科会グラ
ウト班打合せ(第11回) (44.6.20) 出
席者：堀主査，ほか8名。議事：1) グラウ
チングに関する設計，施工上の基準の作
成および検討(氏平委員執筆原稿)。2)
委員の追加ほか。

(11) トンネル調査小委員会打合会
(44.6.20) 出席者：丸安委員長，ほか4
名。議事：トンネル標準示方書解説第2
編調査編の改訂案審議。

(12) 論文集編集委員会 (44.6.20) 出
席者：林委員長，前田部会長，ほか30
名。議事：1) 査読報告。2) 新規受付原
稿について。3) 44年度部会長，幹事長，
幹事をつぎのとおり決定した。

	部会長	幹事
第1部会	前田幸雄	栗林栄一
第2部会	林 泰造	首藤伸夫
第3部会	中瀬明男	湯浅欽史
第4部会	鍛冶晃三	尾坂芳夫
幹事長	田島二郎	
4)	新旧委員会事務引きつぎ。	5) その他。

(13) シールド工法小委員会第4分科
会 (44.6.21) 出席者：西嶋主査，ほか
10名。議事：シールド工法指針第4編施
工および施工設備の原案審議。

(14) 第14回 原力土木打術委員会
(44.6.23) 出席者：関係者11名。議事：
1) 分徹項目(原子力関係)について。2)
講演：原子力発電所のプレストレストコ
ンクリート格納容器および圧力容器の現
状について(海外調査報告) その2 電
力中央研究所 永倉 正委員。3) 今後の
運営方法について。

(15) アルミナセメント小委員会(44.
6.23) 出席者：国分委員長，ほか15名。
議事：1) アルミナセメントコンクリ
ート現場試験の計画について。2) 試験報
告。

(16) トンネル工学委員会トンネル会
議論文委員会都市トンネル分科会 (44.6.
24) 出席者：西嶋主査，ほか3名。議
事：OECD 質問書の発送元の決定および
問題点について。

(17) シールド工法小委員会主査幹事
会 (44.6.24) 出席者：西嶋委員長，ほか
5名。議事：シールド工法指針第4編施
工設備の原案審議。

(18) 会誌編集委員会第54巻第10号
特集編集打合せ (44.6.24) 出席者：関係
者10名。議事：1) 経過報告。2) 特集
内容協議。3) 特集目次協議。4) 特集執
筆依頼先協議。5) その他。

(19) トンネル工学委員会設計小委員
会 (44.6.25) 出席者：伊吹山委員長，足
立副委員長，ほか6名。議事：ロックボ
ルトの逐条審議。

(20) 海岸工学委員会第1回幹事会
(44.6.25) 出席者：岩崎委員長，堀川幹
事長，ほか6名。議事：1) 委員会の活動
方針および開催期日について。2) 相談役
について。3) 編集小委員会について。4)
海岸保全施設設計便覧について。5) 出版
委員会報告。6) 第16回海洋工学講演会
について。7) 講演会講演集の題目変更
について。8) Coastal Engineering in
Japan について。

(21) 空港舗装研究委員会アスファ
ルト舗装部会 (44.6.25) 出席者：谷藤部
会長，ほか11名。議事：1) 試験舗装の計
画要領(案)について。2) 今後の運営に
ついて。

(22) 大学土木教育委員会第6回幹事
会 (44.6.25) 出席者：奥村委員長，ほか
5名。議事：1) 大学部カリキュラムの構
成とその内容について。2) 日本の大学の
カリキュラムの構成について。3) 大学卒
5年程度の人を対象としたアンケートに

ついて。4) 大学院に関する問題について。5) Visiting Professor の制度について。6) 施設調査について。

(23) 土木年鑑編集委員会 第1回主査幹事会 (44.6.25) 出席者: 春日屋委員長, ほか9名。議事: 1) 70年版編集方針協議。2) 70年版目次協議。3) 70年版執筆選定。4) その他。

(24) 岩盤力学委員会 第3分科会 (第8回) (44.6.26) 出席者: 林主査, ほか12名。議事: 1) 岩盤力学に関する文献のとりまとめについて。2) 講演: 「喜撰山ロックファイル ダムのファイル材料の力学的性質」関西電力 大長昭雄氏。3) 岩盤の現地試験結果のデータのとりまとめ。4) 主査幹事会経過報告。

(25) 衛生工学委員会 汚濁研究会議小委員会 (44.6.26) 出席者: 関係者9名。議事: 国際汚濁研究会議について打合せを行なった。

(26) シールド工法小委員会 第3分科会 (44.6.26) 出席者: 小林主査, ほか5名。議事: シールド工法設計施工指針第3編シールドの問題点について審議。

(27) 会誌編集委員会 (44.6.26) 出席者: 森委員長, ほか28名。議事: 1) 開会のあいさつ。2) 経過報告。3) 委員会事務取扱説明。4) 会誌特集(54巻10号) 打合・協議。5) 委員自己紹介。6) その他。

(28) 図書館運営小委員会 (44.6.26) 出席者: 園田委員長, ほか2名。議事: 1) 43年度活動報告。2) 図書館利用状況報告。3) 昭和44年度予算について。4) 昭和44年度図書館運営重点目標について。5) 図書分類追加項目について。

(29) 沈埋トンネル小委員会 (44.6.27) 出席者: 大平委員長, ほか14名。議事: 1) OECD 質問書送付先について。2) 提出資料の説明。3) 「基本計画」草案の審議。

(30) トンネル施工小委員会 吹付コンクリート分科会 (44.6.27) 出席者: 足立委員長, 大塚副委員長, ほか4名。議事: 吹付コンクリート設計施工指針条文作成。

(31) トンネル工学委員会 調査小委員会 (44.6.27) 出席者: 丸安委員長, ほか5名。議事: トンネル標準示方書解説の調査編改訂案審議。

(32) シールド工法小委員会 第4分科会 (44.6.28) 出席者: 西嶋主査, ほか9名。議事: シールド工法指針第4編施工および施工設備の原案審議。

(33) 論文集編集委員会 部会長会 (44.6.28) 出席者: 林委員長, 前田副委員長,

鍛冶部会長, 田島幹事長, ほか4名。議事: 1) 各部会報告。2) 論文報告集第169号, 第170号掲載原稿について。3) 欧文論文集について。4) 投稿要項について。5) 副委員長に前田幸雄第1部会長を選出。6) その他。

(34) トンネル会議論文委員会 (44.6.30) 出席者: 伊吹山委員長, ほか13名。議事: 1) 質問書(OECD) 依頼文作成。3) 質問書依頼先について。3) トンネルシンポジウム70の外国講演者の推薦依頼の方法について。5) その他。

(35) トンネル会議論文委員会 山岳トンネル分科会 (44.6.30) 出席者: 関係者3名。議事: OECD 質問書(山岳トンネル)の送付先の選考を行なった。

(36) プレストレストコンクリート設計施工指針改訂小委員会 第10回設計分科会 (44.6.30) 出席者: 猪股主査, ほか8名。議事: プレストレストコンクリート設計施工指針改訂原案設計編の逐条審議。

(37) 昭和44年度第1回耐震工学委員会 (44.7.1) 出席者: 関係者19名。議事: 1) 経過報告。2) 委員長の選出。3) 運営方針について; ①内規について, ②副委員長および主査の選出, ③調査研究事項について。4) 第10回地震工学研究発表会について。

(38) 第5回企画委員会 (44.7.1) 出席者: 仁杉委員長, ほか13名。議事: 1) 前回議事録の確認。2) 理事会(6月24日開催)の経過報告。3) 海外活動(仮称)に関する委員会設置の件。4) 総合計画, 事業の経済性等, 大きな投資についての発表, 研究, 討論について。5) 国土総合開発計画について。6) 電算の活用と各種手法の取り入れについて。7) 原子力関係について。8) その他。

(39) 耐震工学委員会 第2回常任委員会 (44.7.1) 出席者: 岡本委員長, ほか15名。議事: 1) 調査研究事項の検討。2) 主査の選出。

(40) トンネル工学委員会 運営委員会 (44.7.1) 出席者: 住友委員長, 坂本副委員長, ほか11名。議事: 1) OECD 質問書について。2) 第6回シンポジウムの議題について。3) 第5回シンポジウムの議題について。4) 第6回シンポジウム財務に関する規則について。5) その他。

(41) 文献調査委員会 (44.7.2) 出席者: 新谷委員長, ほか16名。議事: 1) 会誌54巻9号登載抄録について。2) 紹介記事について。3) 解説記事について。4) 委員会活動について。

(42) 欧文論文集編集小委員会 (44.7.

2) 出席者: 林委員長, ほか4名。議事: 1) 部会長報告に関連して。2) 欧文論文集1969-1の内容について。3) その他。

(43) トンネル工学委員会 施工小委員会 吹付コンクリート分科会 (44.7.3) 出席者: 足立委員長, 大塚副委員長, ほか5名。議事: 吹付コンクリート設計施工指針条文作成。

(44) 空港舗装研究委員会 幹事会 (44.7.3) 出席者: 1) 関係者9名。議事: アスファルト舗装部会およびコンクリート舗装部会の経過報告。2) 試験舗装実施要項(案)について。3) その他。

(45) シールド工法小委員会 主査幹事会 (44.7.3) 出席者: 西嶋, 遠藤, 山本の各主査, ほか5名。議事: シールド工法設計施工指針第4編施工および施工設備の条文審議。

(46) 会誌編集小委員会 (44.7.4) 出席者: 森委員長, ほか6名。議事: 1) 経過報告。2) 会誌54巻11号編集。3) 会誌54巻10号に関する依頼原稿討議。4) 会誌54巻10号特集協議。5) その他。

(47) 昭和44年度土構造物の設計標準に関する研究委員会 (44.7.4) 出席者: 最上委員長, ほか33名。議事: 1) 挨拶。2) 委員会構成(案)について。3) 議題; ①研究目的, ②研究計画。3) 研究方針と問題点について。

(48) 海岸保全施設設計便覧改訂小委員会編集委員会 (44.7.5~6) 出席者: 久宝委員長, ほか5名。議事: “海岸保全施設設計便覧”の編集作業(校正その他)を行なった。

(49) シールド工法小委員会 第4分科会 (44.7.7) 出席者: 西嶋主査, ほか8名。議事: シールド工法指針第4編施工および施工設備の原案審議。

(50) 橋梁構造委員会 第9回耐風設計研究小委員会 (44.7.8) 出席者: 平井委員長, ほか13名。議事: 1) 講演; ①海上風の風速鉛直分布について 国鉄 新井委員, ②暴風時の突風の構造について 日本大学 塩谷委員。2) 風による構造物の事故の調査について。3) 構造物の耐風性に関するシンポジウム開催について。4) 構造工学総合研究所(仮称)設立計画について。

(51) PC工法小委員会 第3回フレシネー工法 (44.7.9) 出席者: 国分委員長, 河野主査, ほか26名。議事: フレシネー工法設計施工指針(案)第1次案の逐条審議。

(52) シールド工法小委員会 主査幹事会 (44.7.7) 出席者: 西嶋, 遠藤, 山本,

小林の各主査, ほか4名。議事: シールド工法指針第4編施工および施工設備の審議。

(53) トンネル会議論文委員会 山岳トンネル分科会(44.7.1) 出席者: 関係者4名。議事: トンネルシンポジウム70の外国講演者推薦依頼文(案)作成。

(54) 昭和44年度水理委員会第1回幹事会(44.7.11) 出席者: 林委員長, ほか10名。議事: 1) 委員会内規について。2) H. Rouse 教授の講演開催について。3) 日本学術会議水力学・水理学研究連絡委員会について; ①混相流研究所について, ②水文学研究体制について。4) 水理委員会・水文学小委員について。5) 土木年鑑原稿執筆について。6) I.S.O について。

(55) 土木計画学研究委員会 幹事勉強会(44.7.11~12) 出席者: [第1日目] 関係者10名, [第2日目] 関係者11名。議事: 1) 第3回シンポジウムの反省。2) 第4回シンポジウムの主題と展開討議。3) その他。

(56) 琵琶湖の将来水質に関する調査小委員会(44.7.12) 出席者: 岩井委員長, ほか11名。議事: 1) 経過報告。2) 委託者挨拶。3) 委員長挨拶。4) 自己紹介。5) 委員会の運営方針。

(57) シールド工法小委員会第4分科会(44.7.12) 出席者: 西嶋主査, ほか9名。議事: シールド工法指針第4編施工および施工設備の原案審議。

(58) 視聴覚教育委員会 選定映画審査会(44.7.12) 出席者: 丸安委員長, 鈴木副委員長, 綾幹事長, ほか7名。議事: 「選定映画」応募作品のうち今回はダム関係映画について審査を行なった。

(59) 海岸工学委員会第1回編集小委員会(44.7.14) 出席者: 堀川委員長, ほか7名。議事: 1) 経過報告。2) 第16回海岸工学講演会について; ①プログラムの編成, ②その他。3) Coastal Engineering in Japan について。

(60) シールド工法小委員会 主査幹事会(44.7.15) 出席者: 西嶋委員長, ほか7名。議事: シールド工法指針第4編施工および施工設備の原案審議。

(61) アルミナセメント小委員会 出席者: 国分委員長, ほか10名, 議事: 1) 経過報告。2) 試験結果の報告。3) 現場試験について。

(62) トンネル会議論文委員会(44.7.16) 出席者: 伊吹山委員長, 大平主査, ほか12名。議事: 1) 外国講演者紹介状(案)検討。2) 開催期日の変更について。3) 今後の作業日程について。4) プログ

ラムの作成。

(63) 海外連絡委員会(44.7.16) 出席者: 新井委員長, 太田尾新委員長, ほか11名。議事: 1) Civil Eng. in Japan, 1969 について。2) 企画委員会の経過報告に関連して。3) その他。

◎その他

(1) コンクリート関係有志懇親会(44.6.21)

場所: 土木図書館5号室

出席者: 41名

(2) 第10回地盤工学研究発表会(44.7.15~16)

場所: 土木図書館講堂

参加者: 約200名

講演数: 30題(内特別講演2題)

◎懇親会(7.15)

参加者8名

支 部 だ よ り

◎関西支部

(1) 工程管理に関する講習会(追加開催分)(44.6.17~18, 大阪科学技術センター)

題目と講師

1. これからの工程管理の考え方
国鉄中央鉄道学園学長室調査役 矢部 真

2. 同 上
日本道路公団高速道路広島建設所 津山工事事務所長 永吉寿男

3. ネットワーク手法の計算および演習
京都大学教授工学部 工博 吉川和広
および建設コンサルタンツ協会大阪支部
技術研究委員会施工管理分科会

4. 安治川水門建設における工程管理
大阪府土木部高潮課長 那智俊雄

5. 港湾および空港工事における工程管理
元第三港湾建設局工務第一課長 城所正雄

6. 万国博覧会会場建設における PERT
導入例
日本万国博覧会協会建設部工程管理課長 山本芳雄

代講 日本万国博覧会協会建設部工程管理課
宇井一郎・細川 修

7. 橋りょう下部工事における PERT
導入例
中央復建コンサルタンツ(株)
調査研究室次長 柳田保男

8. 地下駅構築における PERT 導入例
(株)奥村組技術研究所
調査部長 河原畑良弘

9. 道路工事における工程管理
近畿地建第二阪神国道工事事務所長
片山重夫

参加者: 203名(会員 175名)
(非会員 28名)

参加費: 会員 1100円
非会員 1600円

(2) 若い会員懇親パーティ(第1回)
(44.6.17, 大阪科学技術センター)

参加者: 37名(うち招待関係6名)
参加費: 無料

(3) 第1回商議員会(44.6.27, 好文倶楽部) 出席者: 野瀬支部長, 岡田幹事長, 商議員25名, 評議員12名, 幹事11名。

(4) 第1回幹事会および引継幹事会(44.6.4, 好文倶楽部) 出席者: 野瀬支部長, 岡田幹事長, ほか22名。

(5) 第2回幹事会(44.6.27, 好文倶楽部) 出席者: 野瀬支部長, 岡田幹事長, ほか20名。

(6) 第37回騒音振動委員会(44.6.16, 好文倶楽部) 出席者: 庄司委員長, ほか11名。

(7) 騒音振動委員会幹事会(第34回)(44.6.16, 好文倶楽部) 出席者: 庄司委員長, ほか6名。

(8) 商議員交替 商議員 中江勇氏(株)藤田組土木統轄部長に転出のためその後任として(株)藤田組大阪支店土木部長 林 功治氏を委嘱した。

(9) 常任幹事会(第1回)および全国大会実行委員会実行委員会準備会(第1回)(44.7.16, 好文倶楽部) 出席者: 岡田幹事長, ほか11名。

(10) 第38回騒音振動委員会(44.7.21, 好文倶楽部) 出席者: 委員10名。

(11) 騒音振動委員会幹事会(第35回)(44.7.21, 好文倶楽部) 出席者: 関係者7名。

◎中国・四国支部

(1) 昭和44年度中国四国支部第21回学術講演会(44.7.17, 広島市平和記念館)

一般講演: 38題

参加者: 150名

(2) 昭和44年度支部総会 特別講演会(44.7.18, 広島市平和記念館)

1) 通常総会

2) 特別講演会;

① 海洋開発について

東海大学教授 速水頌一郎

② 建設工事にともなう公害問題について
福井大学教授 鳥海 勲

③ 都市計画の最近の話題について

広島大学 ウィリアム・オズワルド・バックハウス

(3) 見学会(44.7.19, 東洋工業株式会社) 参加者: 40名。

(4) 昭和44年度新役員

つぎのとおりである。

支部長 田辺 義亮 広島県土木建築部長

商議員	網千 寿夫	広島大学工学部教授	南 一良	中国電力(株)土木部長	大西 庸夫	広島建設コンサルタン ト第5設計課
	加賀美一二三	山口大学工学部教授	小松 公一	五洋建設(株)取締役 中国支店長	幹事 三瀬 純	日本道路公団高速道路 広島建設局技術課長
	星 治雄	徳島大学工学部教授	松村 恭二	復建調査設計(株)社 長	事務局長	佐々木正夫
	安山 信雄	愛媛大学工学部教授	坂田 静雄	広島建設コンサルタン ト(株)社長	事務局長	神笠 千鳥
	西林 新蔵	鳥取大学工学部教授	吉田 喜市	日本道路公団高速道路 広島建設局長	(本部)	理事 星 治雄
	小沢 章三	高松工業高等専門学校 教授	安原 稔	(株)大木組土木部次長 (株)藤田組広島支店次 長	評議員	伊藤 直行
	伊藤 直行	中国地方建設局長	豊田 実	復建調査設計(株)社長		神田 精夫
	神田 精夫	四国地方建設局長	監査役 松村 恭二	広島建設コンサルタン ト(株)社長		銀山 匡助
	藪本 健作	中国地方建設局企画室 長	坂田 静雄	五洋建設(株)専務取 締役		長谷川 亘
	田原 英二	四国地方建設局企画室 長	顧問 内林 達一	広島ステーションビル 社長		田辺 義亮
	高橋 光	岡山県土木部長	佐々木 銚	西村 敏男		南 一良
	八田 晃夫	鳥取県土木部長	西村 敏男	高木 澄清		安山 信雄
	平岡 義孝	山口県土木建築部長	幹事長	門田 博知		(本部)各委員会委員
	雪竹 秀臣	鳥根県土木部長		松永 安生		表彰 南 一良
	関 周三	香川県土木部長		小野 正		論文賞 網千 寿夫
	飯島 寿	愛媛県土木部長		新田 実		学術講演連絡 大村 裕
	片山 直梢	徳島県土木部長		森本 昭男		大学土木教育 網千 寿夫
	清郷 博人	高知県土木部長		森田 博文		会誌編集 藪本 健作
	銀山 匡助	広島市都市計画局長				水 理 門田 博知
	浪速 普吾	岡山市建設局長				松尾捨三郎
	長谷川 亘	岡鉄中国支社長				金丸 昭治
	加藤八洲夫	国鉄中国支社施設部長				藤原 輝夫
	建部 恆彦	岡山鉄道管理局施設部 長				論文集編集 小田 英一
	増本 隆三	米子鉄道管理局施設部 長				
	渡辺 啓年	国鉄四国支社施設部長				
	山本 三男	中国電力(株)取締役 企画室長				
	村田 清逸	中国電力(株)鳥根原 子力建設準備本部長				

編集 後記

テレビのコンピューター講座の視聴率が予想をはるかに上回りどこの書店でもテキストが売切れたといわれる。アポロ計画においてもコンピューターを駆使した99.9999%、いわゆる69の信頼度を維持する管理システムが盛んに宣伝され、コンピューターに対する一般の関心はかなり高いようであるが、コンピューター革命といわれる情報文明が現代の機械文明に新たな刺激を与え、その発展をますます加速することが予想される。万物の霊長であったわれわれ人間はその存在価値をどこに求め、高度に発達した機械文明と人間の精神活動との調和をいかにしてとり、人間としての生きがい何を求めるかが重要な課題となってきた。

現代の技術思想の最大の特徴は、インプットからアウトプットに至るまでの過程をできるかぎり安定させ、外部からの攪乱が起こればこれをいち早く発見して修正するという手法で全体の信頼性と安全性を確保しようというやり方だといわれている。この方法は、近代工業の各分野で多大の貢献をしているのであるが、一方われわれの人間活動をも機械文明に順応させることをせまってく

る。

たとえば、最新の技術でつくり上げた道路で近代工場から生れた自動車を人間が走らせたとき何が起こったか？。

年々増加する自動車事故による死傷者の数を減らすことは安全運転という修正をほどこしただけで解決できる問題ではないだろう。自動車や道路の設計にも新しい設計思想が必要なのではないだろうか。

ますます複雑化する社会において、現代の技術思想をもう一度会員の皆様とともに考え直してみようではありませんか。

さて、今月号は積算に関する記事3編と一般依頼原稿を主体にした普通号です。会員の皆様に読んでいただける学会誌をお送りしたいと編集員一同頭をしばっておりますが、会員からのご意見もどしどしお寄せ下さるようお願いいたします。

(高尾孝二・記)